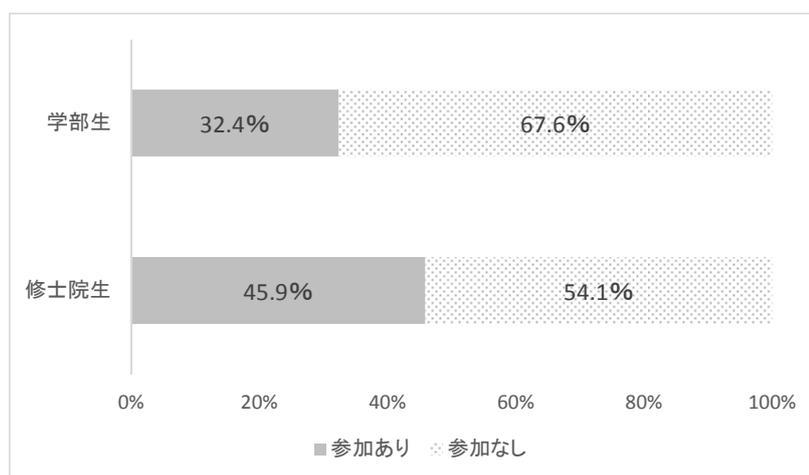


## 第3章 「インターンシップ」

### 1. インターンシップへの参加経験

学生全体のインターンシップへの参加経験を把握するために「大学に入学してから現在までの間にインターンシップに参加したことがありますか」として尋ねた。図表 3-1 に学部生・修士院生別の集計結果を示す。

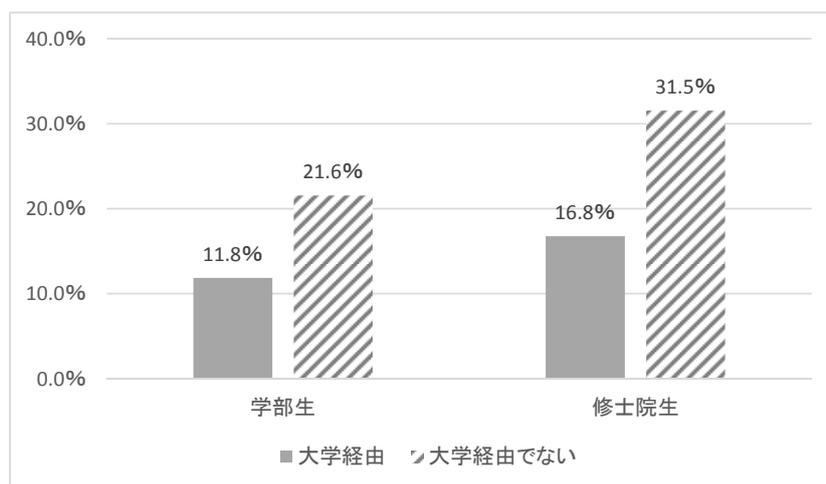
学部生でインターンシップに参加経験がある学生は 32.4%、修士院生では 45.9%である。『平成 27 年度大学等におけるインターンシップの実施状況について』(文部科学省 2017)によると、学部生では平成 27 年度のインターンシップへの参加率は 22.0%であった。本学で実施した調査はこれまでインターンシップに参加した経験を尋ねているため、この数値とは比較できないが、全国平均の数値に近い参加率ではないかと推察される。



図表 3-1. インターンシップへの参加経験

## 2. インターンシップの応募方法

次に、インターンシップに参加した経験がある学生だけを対象に、応募方法について複数回答可として尋ねた結果を図3-2に示す。大学経由の応募は学部生では11.8%、修士院生では21.6%である。大学経由でない応募は、学部生では16.8%、修士院生では31.5%と大学を経由しない応募の割合が大学を経由する2倍程度と多い。この傾向は、多くの大学等でも同様である。

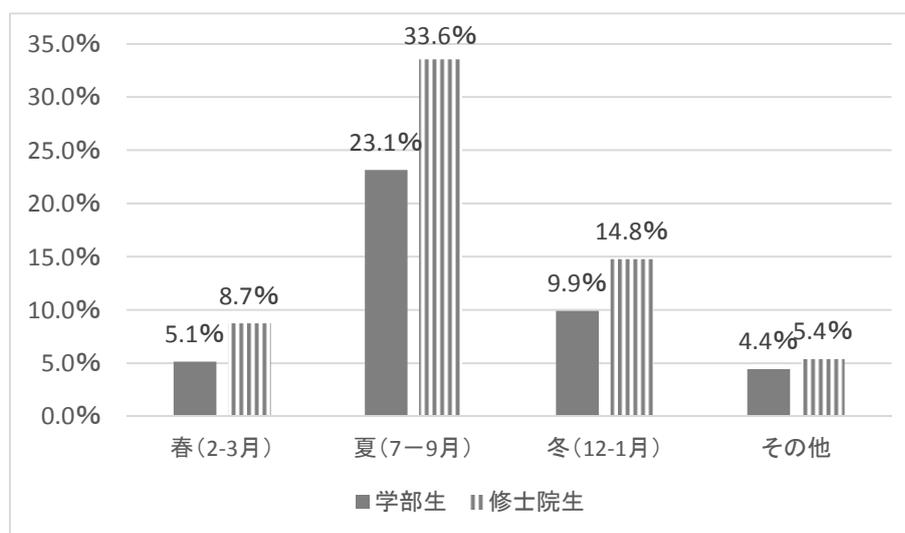


図表 3-2. インターンシップへの応募方法

## 3. インターンシップへの参加時期と期間

### (1) 参加時期

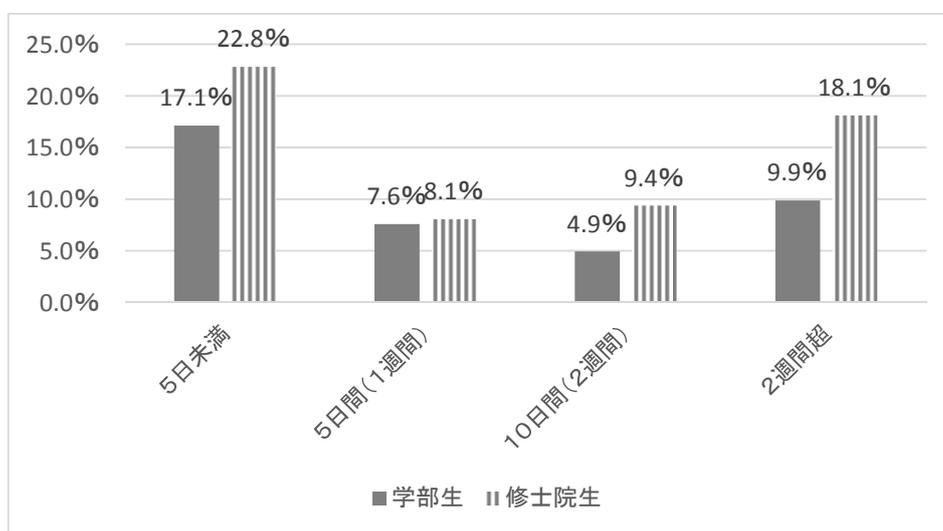
次に、学生がインターンシップに参加した時期について、春(2-3月)、夏(7-9月)、冬(12-1月)、その他として複数回答可として尋ねた。結果を図表3-3に示す。学部生、修士院生ともに夏(7-9月)の夏季休業時にインターンシップに参加する人が多く、学部生で23.1%、修士院生で33.6%であった。次いで、冬(12-1月)、春(2-3月)と続いている。



図表 3-3. インターンシップに参加した時期 (複数回答可)

## (2) 参加期間

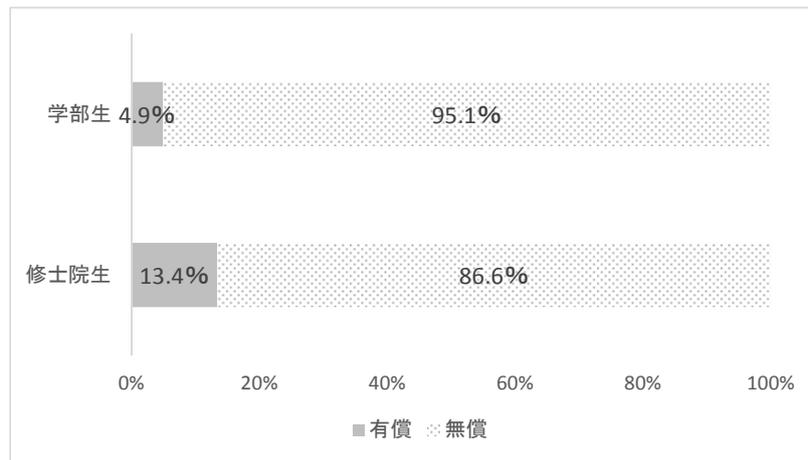
参加期間について、近年は企業側が採用活動を視野に入れたワンデーでのインターンシップが増加している。ここでは、インターンシップに参加した期間について複数回答可として尋ねた。図表 3-4 に結果を示す。学部生、修士院生ともにワンデーを含む 5 日未満で参加した割合が最も多く、学部生で 17.1%、修士院生で 22.8%とインターンシップ参加者の約 2 割が一度は 5 日未満のインターンに参加している。次いで多いのが 2 週間を超える期間であり、特に修士院生が多く見られる。これは研究インターンシップや業務に入る場合には長期に及ぶことが多いためである。5 日間と 10 日間はそれぞれ 1 割に満たないが両者を合わせると、学部生では 1 割を超え、修士院生では 2 割弱となる。この結果から、短期のインターンシップ参加は学部生・修士院生ともにそれぞれ 2 割程度見られる。インターンシップとしての本来の就業体験ができていない学生はそれより少なく、学部生で 1 割程度、修士院生では 2 割弱であることが明らかになった。



図表 3-4. インターンシップに参加した期間（複数回答可）

## (3) インターンシップでの報酬の支給

次に、インターンシップを体験したことがある学生を対象に、報酬の有無を尋ねた結果を図表 3-5 に示す。交通費や食費を含まずに有償であったと回答した学生は学部生 4.9%、修士院生は 13.4%である。前出の『平成 27 年度大学等におけるインターンシップの実施状況について』(文部科学省 2017)によると、学部生で報酬があったと回答した学生は 3.5%であり、大学院生では 10.5%である。これと比較するとインターンシップに参加して報酬を支給される学生の割合は全国平均に比べてやや多い。



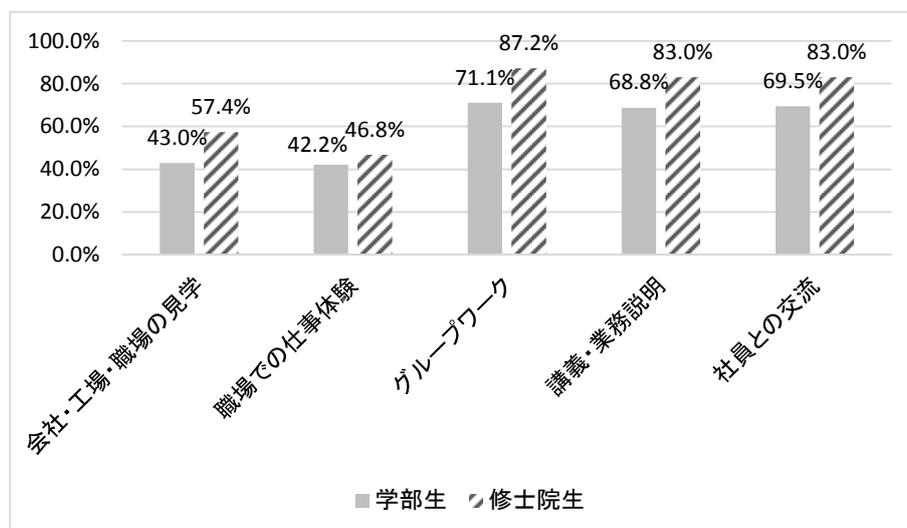
図表 3-5. インターンシップ参加への報酬の支給

#### (4) インターンシップで経験した内容

民間企業へのインターンシップで経験した内容について、「会社・工場・職場見学」「小職場での仕事体験」「グループワーク」「講義・業務説明」「社員との交流」から複数回答として選んでもらい回答を得た。結果を図表 3-6 に示す。

学部生で最も多い内容は「グループワーク」71.1%であり、「社員との交流」69.5%、「講義・業務説明」68.8%と続いている。企業が採用選考時の参考にすると言われている1～2日程度のワンデーインターンシップではグループディスカッションやプレゼンテーションなどが頻繁に行われている。この調査結果はこのことをよく表している。そして、本来の職業体験としての「職場での仕事体験」は42.2%であった。

修士院生でも同様の傾向であり、「グループワーク」87.2%、「社員との交流」83.0%、「講義・業務説明」83.0%と続いている。「職場での仕事体験」は46.8%とほぼ半数となっているが、大学院のインターンでは研究インターンシップが含まれるため職業体験の割合が多くなるようである。



図表 3-6. インターンシップで経験した内容（複数回答）